

## 英語教員になるには

(平成 28 年 2 月初版)

### はじめに

聴覚障害学生の中にも英語の力をつけ、英語教員を目指す人たちがいます。英語教員になるには、教員免許を取得し、採用試験に合格しなければなりません。聴覚障害者が英語教員になるには、どのような難関を突破しなければならないか、実例を含めて解説します。

### 一般的な教員免許状の取得

どの免許を取得するにも「外国語コミュニケーション」2単位が必要です<sup>1)</sup>。小学校教諭の教職課程においては、「外国語活動に関する指導法」を「教職に関する科目」に準ずる科目として、「教科又は教職に関する科目」の中に位置づけた上で開設することが望まれるとされており、外国語活動の指導ができることが小学校教員の条件になっています。

中・高の英語教員に限らず、「外国語コミュニケーション」の2単位は教職課程に必須ですが、どの科目を当てるかは、大学に任されています。筑波技術大学 産業技術学部では、「英語 I」4単位のうちの2単位が「外国語コミュニケーション」に相当するとしています。「外国語」は「英語」とは限りませんし、「コミュニケーション」は音声によるものとは限りません。例えば「アメリカ手話」を当てることも可能です。

### 特別支援学校教諭の免許状の取得

聴覚障害教員は特別支援学校に配属される可能性が高く、就職後に特別支援学校教員の免許の取得を求められることがあります<sup>2)</sup>。都道府県などが主催する認定講習を受けて実務経験が3年になれば、取得できます。在学中に特別支援教育の免許を取得できるとして認定を受けている大学の一覧表が、以下のサイトにあります。

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/24/1287085\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2015/12/24/1287085_01.pdf)

認定を受けている特別支援教育領域のうち聴覚障害者（の領域）を持つ大学は、以下のとおりです。

宮城教育大学、東北福祉大学、筑波大学、群馬大学、東京学芸大学、  
日本社会事業大学、横浜国立大学、上越教育大学、金沢大学、愛知教育大学、  
京都大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、川崎医療福祉大学、広島大学、  
愛媛大学、福岡教育大学

### 英語教員免許状の取得

教科に関わる科目として以下の4科目が定められています。

英語学  
英米文学  
英語コミュニケーション  
異文化理解

英語コミュニケーションに関しては、聴覚障害者の場合はリスニングとスピーキングに困難があるので、配慮が望まれます。ノートテイクやパソコンノートテイクをつける、字幕の入った教材を用いる、音声以外のコミュニケーションに焦点を当てた内容にする、などが考えられます。また説明や指示の文字化、補助プリントの配布も有効です。

【参考】教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則（教員免許課程認定関係条文抜粋）：

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kyoin/1268593.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoin/1268593.htm)

1) その他の科目として、以下の科目についても各2単位以上取得が必要である。

- ・ 日本国憲法
- ・ 体育
- ・ 情報機器の操作

2) 平成 25 年度特別支援学校教員の特別支援学校教諭等免許状保有状況等調査結果の概要：

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2014/06/25/1349052\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/__icsFiles/afieldfile/2014/06/25/1349052_01.pdf)

【参考】一般大学に学ぶ聴覚障害者の英語受講時の情報保障に関するアンケート調査 - 「読解」と「英会話」科目における情報保障支援の比較とその有効性 -：

[http://www.tsukuba-tech.ac.jp/rep\\_o/dspace/handle/10460/1201](http://www.tsukuba-tech.ac.jp/rep_o/dspace/handle/10460/1201)



## 例2 (B県に在職)

平成24年に大学卒業と同時に就職した。

**<情報保障>** 採用試験に応募する時に手話通訳をお願いしたため、当日は情報保障に困ることはなかった。

**<集団面接>** 面接で聞かれそうな質問を事前に参考書で読んだりインターネットで確認したりしていたため、当日答えにつまむことはなかった。また、他の人の答えをきちんと聞いて相づちを打つなどした。自分だけが答えればよいのではなく、他の人の答えに興味をもつことも必要。

**<個人面接>** 限られた時間内で自分をどのようにアピールするとよいか考えることが大切だと感じた。声を出して手話もつけて答えたが、発音が完璧ではないので手話通訳者に読み取り通訳をしてもらった場面が多かった。事前に自己分析をしておくことが必要。また、自分の好きな言葉や、自分の今までの経験から何を学んで教員としてその経験をどう生かしたいのか、教員としての立場で考えることが大切。面接については、事前の準備をしっかりとやってきたかどうかで合否に分かれる。

**<実技試験>** 本来は英語で口話のみで行うが、聴覚障害があるため、英語による筆談で行った。あいさつから始まり、質問に英語で答える形式だった。自分の生活のなかで英語の本を読んだり英文日記を書いたりする習慣があると英語の試験など役に立つので、普段から読み書きをするとよい。

聞こえないのに英語を指導するのは無理だと思われがちですが、実際に聴覚特別支援学校で英語や外国語活動を担当している聴覚障害をもつ教員はいます。生徒たちにとっても良い学習モデルになるので、道を閉ざすことなく、応援して行きたいものです。

公立校の場合は一般の採用試験を突破しなければなりません。私立や国立の場合は個別の募集があります。補聴器を用いる難聴者で、母校の私立中学の教員になった例もあります。

執筆者： 筑波技術大学 松藤みどり  
(障害者高等教育研究支援センター 教授)

聴覚障害学生のための語学関連 Tips

発行 国立大学法人 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

<本コンテンツに関する問い合わせ先>

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター「障害者高等教育拠点」事務局  
E-mail: [krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp](mailto:krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp) URL: <http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/kyoten/html>

本センターは、文部科学省より教育関係共同利用拠点として認定を受けています。本シートは、「障害者高等教育拠点」事業・「語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供」の取組の一環として作成したものです。本シートの内容の無断複写・転載を禁じます。